

和田砦跡（和田城跡）

戦国時代（1467-1615年）、甲賀地方の忍者たちは家族を守り、村を防衛するために砦を築きました。この地域の険しい山々や谷には、約180の砦跡が確認されています。

砦は城と呼ばれることもありますが、空堀に囲まれた土塁壁からなる単純な構造でした。ほとんどの砦跡は私有地にあり、実際の構造物はほとんど残っていません。しかし、和田砦跡を訪れることで、それが忍者の生活において果たした役割を理解することができます。

甲賀地域は当時としては珍しく、他の多くの地域とは異なり、地元大名の権力が弱かったのが特徴。その代わりに、地元の共同体が血縁や地縁に基づく集団を形成し、自律的な地域統治を行っていました。堅固で攻撃が困難な砦は、甲賀流忍者の防御スキルを示しています。

和田砦は和田谷の最も奥にある丘の上に建てられました。主要な囲いは一辺が50メートルの正方形を形成し、土塁で囲まれていました。周囲は土塁で囲まれており、中には高さ7メートルに達するものもあったと考えられています。

谷にはかつて7つの砦があり、不審な動きがあるとどこかの砦から攻撃が始まり、侵入者を罠にかける仕組みがありました。

和田砦跡は少々見つけにくい場所にあるため、甲賀流リアル忍者館の観光案内所に立ち寄り、道順を尋ねることをお勧めします。